

## Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

### 1 製造業

#### (1) 一般機械器具

##### 【景況感】

- ・半導体関連の売上高、受注高ともに落ちており、不況である。
- ・物流の停滞は徐々に解消し、生産も増えており、景況感は普通である。
- ・自動車の生産調整の影響が波及しており、不況である。

##### 【売上高】

- ・売上高は前年同期比102%とほとんど変わらないが、受注高ベースでは減っている。
- ・受注量はほとんど変わらないが、単価が上がったため売上高は増えた。
- ・半導体関連の需要が落ち込み、売上高は減少した。

##### 【品目別の状況】

- ・半導体関連は春頃まで落ち込み、回復は秋以降の見通し。
- ・自動車関連は徐々に生産が増えている。

##### 【受注単価】

- ・価格転嫁により受注単価は上がったが、希望単価の20%に留まっている。
- ・コストが3割上がっている中で1割程価格転嫁できた。
- ・商品改良等の工夫をして価格転嫁を進めている。

##### 【原材料価格】

- ・鋼材、鉄の価格は前年同期比10%上昇した。
- ・原材料価格全体で見ると、一昨年から三段階で上昇している。

##### 【その他諸経費】

- ・輸入商材は円安の影響もあり高騰が続いている。
- ・電気代等エネルギー価格が前年比1.8倍の負担増となっている。

##### 【採算性】

- ・売上高減少と原材料価格高騰の影響で採算性は悪くなった。
- ・電気代上昇分の価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。

##### 【設備投資】

- ・新工場が4月に完成予定となっている。
- ・電気代高騰に対応した太陽光発電システムを導入予定。

##### 【今後の見通し】

- ・半導体関連の回復は秋以降とみられ、当面は悪い方向に向かう。
- ・物流の停滞は徐々に解消しているが、海外景気の減速から悪い方向に向かう。
- ・感染症の収束から受注回復が予想されるが、どちらともいえない。

#### (2) 輸送用機械器具

##### 【景況感】

- ・乗用車の生産は回復していないが、荷台等の車軸関連が好調のため、好況である。
- ・既存製品取引は安定しているが、新規の受注が低調のため、景況感は普通である。
- ・自動車関連は納品先メーカーの生産調整が続いており、景況感は不況である。

### 【売上高】

- ・原材料費や電気代の価格転嫁により売上高は5%程増加した。
- ・前年も受注が落ち込んでいたのほとんど変わらない。
- ・自動車メーカーの生産調整で取引先の在庫が増えたため、新規受注が減少した。

### 【受注単価】

- ・原材料費、電気代高騰分の価格転嫁交渉はほぼ終了し、随時価格に反映されている。
- ・原材料費の価格転嫁はできたが、電気代はエビデンスを求められ、転嫁できていない。
- ・小口の取引は価格転嫁できたが、主力商品は慎重に価格交渉をおこなっている。

### 【原材料価格】

- ・金属の上昇は落ち着いたが、プラスチック材の高騰は続いている。
- ・梱包資材、加工資材の高騰が続いている。

### 【その他の諸費用】

- ・運送費用が増えた。
- ・溶接に使用する炭酸ガスなどが値上がりした。

### 【採算性】

- ・価格改定のタイミングは年2回のため価格転嫁が追いつかず、採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・生産性向上と価格転嫁により採算性は良くなった。

### 【設備投資】

- ・新規受注に対応するため、NC旋盤導入や工場屋根への太陽光パネル設置を行った。
- ・補助金を活用し、溶接ロボットと研磨機を購入した。

### 【今後の見通し】

- ・自動車の生産回復は時間を要するが、新規取引が増えており、良い方向に向かう。
- ・メーカーの計画内示は増産見込みだが、下方修正の可能性も高く、どちらともいえない。

## (3) 電気機械器具

### 【景況感】

- ・主力商品は海外で製造し、国内への影響が少ないため、景況感は普通である。
- ・中国向け製品の受注回復が遅れており、不況である。
- ・検査キットの需要減が見込まれ、景況感は普通である。

### 【売上高】

- ・パソコン機器関連は在宅勤務を追い風に増加したが、前年比ではほとんど変わらない。
- ・抗原検査キットの特需が終わり、売上高は減った。
- ・5G関連の落ち込みが大きく、売上高は減った。

### 【原材料価格】

- ・石油、アルコール類が大幅に上がった。
- ・海外現地法人は現地調達のため、国内に比べ原材料価格への影響が小さい。

### 【その他の諸経費】

- ・電気料金が前年比2～3倍に高騰しており、値上がり幅が大きい。
- ・半導体関連は電気の消費量が大きいため、電気代高騰による影響が大きい。

### 【採算性】

- ・売上高の減少の中で電気代の負担が重く、採算性は悪くなった。
- ・工場の機械化、自動化を進めており、生産性向上により収益性は良くなった。

#### 【設備投資】

- ・工場のLED化を進めている。
- ・人力から機械への移行を踏まえ、新規の機械導入を予定している。

#### 【今後の見通し】

- ・中国の生産動向が不透明のため、どちらともいえない。
- ・感染症の収束で検査キットの特需が終わるため、悪い方向に向かうとみている。

### (4) 金属製品

#### 【景況感】

- ・半導体関連の受注は5月頃まで減少が見込まれ、景況感は不況である。
- ・自動車関連部品の動きが停滞しており、不況である。
- ・取引先の生産は徐々に戻ってきているが、原材料高の負担が大きく、不況である。

#### 【売上高】

- ・受注量は変わらないが、価格転嫁により全体の売上高は増えた。
- ・半導体関連の売上高は前年比50%減少した。

#### 【受注単価】

- ・価格転嫁により単価は前年同期比で10%上がった。
- ・原材料価格高騰と最低賃金改定を考慮した価格転嫁は概ねできている。

#### 【原材料価格】

- ・アルミニウムはピーク比で下がってきたが、前年比では高騰している。
- ・全体で前年比3割程材料コスト増となっており、特にニッケルが高騰している。

#### 【その他の諸費用】

- ・受注減により外注費が減少した。
- ・電気料金の高騰が続いている。

#### 【採算性】

- ・コスト高に対し価格転嫁が十分に進まず、採算性は悪くなった。
- ・全体の売上高が減っており、採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

#### 【設備投資】

- ・補助金を活用し、新工場新設を予定している。
- ・エネルギー関連補助金を活用し、空調設備を更新する。

#### 【今後の見通し】

- ・見積り依頼は増えているが、本格回復には時間を要する。
- ・受注は徐々に戻りつつあるが、原材料費の高騰が続いており、どちらともいえない。
- ・半導体の受注は一旦落ち込む見通しのため、悪い方向に向かうとみている。

### (5) プラスチック製品

#### 【景況感】

- ・食品、医療関連以外に商社等からの旋盤加工依頼が増えており、景況感は好況である。
- ・オフィス向け建築需要が落ち着いており、景況感は普通である。
- ・繊維強化プラスチックの需要は世界で高まっているが、国内生産は回復せず、不況である。

**【売上高】**

- ・受注増加と価格転嫁により売上高は増えた。
- ・仕事量は変わらないが、価格転嫁により全体の売上高は増えた。
- ・自動車、航空機向けの受注は減少しているが、半導体製造用のタンクの注文が入っている。

**【受注単価】**

- ・原材料、電気代ともに価格転嫁はできている。
- ・エネルギーコスト、輸送コストの価格転嫁は十分にできていない。
- ・前年比全体で10%ほど値上げした。

**【原材料価格】**

- ・半導体やE Vの製造で使用される樹脂の価格が上昇し、入手も困難となっている。
- ・全体の価格はピーク時に比べ下がってきた。

**【人件費】**

- ・物価高騰に対応し、3%の昇給を予定している。
- ・賃金は前年比で引き上げているが、130万の壁を意識した労働時間調整がある。
- ・原材料費高騰の中で従業員給与の昇給まで余裕がなく、ほとんど変わらない。

**【採算性】**

- ・医療機器やトラック関連等大きな仕事が増えるため、採算性は良くなる。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・利益額は前年並みだが、採算性は悪くなった。

**【設備投資】**

- ・物流倉庫新設を進めている。
- ・DX補助金を活用し、OCRと品質保証システムを導入する。

**【今後の見通し】**

- ・新規取引先からの問い合わせが多く、良い方向に向かうとみている。
- ・受注量はピークアウトする見通しのため、どちらともいえない。

**(6) 食料品製造****【業界の動向】**

- ・鳥インフルエンザの影響で鶏卵が不足し、商品が作れず休業しているお店もある。
- ・中小零細で生そばを製造している企業は少なくなっている。

**【景況感】**

- ・新規の仕事は増えており、好況である。
- ・売上高は回復しているが、原材料費が高騰しており、景況感は普通である。

**【売上高】**

- ・客足やOEM受注が回復しており、売上高は増えた。
- ・出荷数が前年比104%に増加した。

**【受注単価】**

- ・商品開発に注力し、新規商品の中で価格転嫁を実現している。
- ・小麦価格の高騰分を価格転嫁した。

**【原材料価格】**

- ・卵は前年比で単価100円上がっており、数も限られるため仕入れに影響している。
- ・小麦粉の国際相場は落ち着いてきたが、卵白が急騰している。

#### 【人件費】

- ・開発部門の人材を積極的に採用している。
- ・決算賞与を支給するなど、人件費は増えた。

#### 【採算性】

- ・生産体制を見直し、売れ筋、主力商品に特化した結果、採算性は良くなった。
- ・原材料費高騰に対応し利幅の良い商品を増やしたため、全体ではほとんど変わらない。

#### 【設備投資】

- ・冷凍設備の投資を積極的に実施していく。
- ・物流強化のため、トラックを購入した。

#### 【今後の見通し】

- ・原材料、エネルギー価格の高騰が続いており、不透明感が強まっている。
- ・受注は回復しているが、卵不足の長期化懸念があり、どちらともいえない。

### (7) 銑鉄鋳物

#### 【景況感】

- ・半導体製造装置部品の受注が続いており、景況感は好況である。
- ・自動車関連の受注は回復が遅れており、不況である。

#### 【売上高】

- ・受注増加と価格転嫁により売上高は増えた。
- ・取引先の中で国内調達を増やす動きがある。

#### 【受注単価】

- ・原材料価格高騰分を価格転嫁できており、単価は上がった。
- ・原材料だけでなく、電気代高騰分の価格転嫁を進めている。

#### 【原材料価格】

- ・コークス、鋼材価格が高止まりしている。
- ・中国のロックダウン解除により鋼材需要が急増し、輸入鋼材が高騰している。

#### 【人件費】

- ・円安、物価高騰に対応するため時給を引き上げた。
- ・人件費はほとんど変わらない。

#### 【設備投資】

- ・新たに電気炉を導入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

#### 【今後の見通し】

- ・EV、半導体関連の受注は増加傾向にあり、良い方向に向かうとみている。
- ・自動車の生産調整は続いており、どちらともいえない。

### (8) 印刷業

#### 【景況感】

- ・店舗内装、車両関連の受注が好調のため、景況感は好況である。
- ・行動制限の緩和で印刷注文は増えつつあるが、不況である。
- ・コロナ禍の前年に比べれば景況感は改善しており、普通である。

### 【売上高】

- ・前年同期が通常期の2倍の売上を計上したため、前年比で売上高は減少した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

### 【受注単価】

- ・値上げ交渉し単価は10%上がったが、一部の取引先からは値下げ要請がきている。
- ・中小が一斉に値上げをおこなっており、業界全体で受注単価は上がっている。

### 【原材料価格】

- ・紙、インク代の値上げが続いている。
- ・梱包資材の値上げの動きが出ている。

### 【採算性】

- ・資材価格高騰の影響で収益性は落ちている。
- ・採算性はほとんど変わらない。

### 【設備投資】

- ・ものづくり補助金を活用し、新しい機械を導入する。
- ・事業再構築補助金を活用し、最新のデータプリントサービスに対応した新設備を導入する。

### 【今後の見通し】

- ・足元の受注は安定しており、良い方向に向かうとみている。
- ・社会全体で紙離れが進んでおり、どちらともいえない。
- ・電気料金やガソリン価格に対する国の支援策次第であり、どちらともいえない。

## 2 小売業

### (1) 百貨店

#### 【景況感】

- ・行動制限の緩和で化粧品、バッグの売上げが好調に推移しており、好況である。
- ・売上高は回復傾向にあるがコロナ禍前には及ばず、景況感は普通である。
- ・客足は戻ってきているが、若干の不況感がある。

#### 【売上高】

- ・全国割や自治体のキャッシュレス還元の効果で売上高は増えた。
- ・時計や宝飾品等の販売が好調のため、全体の客単価が上がっている。

#### 【諸経費】

- ・人件費は減少したが新規企画等を打ち出しており、広告費が増えている。
- ・売上増加に伴い広告宣伝費も増えている。
- ・新規採用は4～5人を予定しているが退職者もおり、人件費全体では減っている。

#### 【採算性】

- ・売上高増加に伴い採算性は良くなった。
- ・光熱費増加と設備投資の影響で採算性は悪くなった。
- ・電気代高騰の影響で採算性は悪くなった。

#### 【今後の見通し】

- ・行動制限の解除を機に人出が戻ってきており、良い方向に向かうとみている。
- ・食料品の値上げが続いており、どちらともいえない。

## (2) スーパー

### 【景況感】

- ・生鮮食品部門が好調であり、好況である。
- ・電気代高騰、物価上昇が続いており、景況感は不況である。

### 【売上高】

- ・衣料品の販売は振るわないが、食料品が好調に推移しており、全体では売上高が増えた。
- ・物価高騰の影響で消費マインドが低下しており、売上高は減少した。

### 【諸経費】

- ・最低賃金引き上げの影響で全体の人件費負担が増加した。
- ・電気料金は前年比180%と高騰しており、輸送コストも増加している。

### 【採算性】

- ・売上増加と客単価の改善により、全体の採算性は良くなった。
- ・賃金の上昇、電気代高騰の影響で採算性は悪くなった。

### 【今後の見通し】

- ・生鮮食品を中心に売上げが好調のため、良い方向に向かうとみている。
- ・電気代の高騰は当面続く見通しであり、悪い方向に向かうとみている。

## (3) 商店街

### 【景況感】

- ・昼間の来街者は増えてきたが、夜の客足が戻らず、景況感は若干不況である。
- ・値上げ関連の報道や物価高で消費マインドが落ちている。

### 【来街者】

- ・外国人を含め観光客が戻ってきている。
- ・天気によって多少の変化はあるが、全体的に来街者数はほとんど変わらない。

### 【個店の状況】

- ・自治体のキャッシュレス還元策で一時的に売上げが上がった。
- ・物価高の影響で夜の飲食店は来客が減っている。

### 【商店街としての取組】

- ・物価高と燃料費高騰の影響で経費削減を求められ、新規イベントは少ない。
- ・感染症の収束でコロナ禍前と同様のイベントが開催できるようになった。

### 【今後の見通し】

- ・観光客はこれから本格的に戻ってくる見通しであり、良い方向に向かうとみている。
- ・行動制限の緩和とイベントの再開で賑わいが戻ることを期待している。

## 3 情報サービス業

### 【景況感】

- ・年度末にかけ自治体からの受注が増えており、景況感は好況である。
- ・企業のIT設備投資の優先度が低くなっている。
- ・景況感は普通である。

### 【売上高】

- ・半導体不足による納品遅れや物価高の影響で設備投資の見送りが増え、売上高は減少した。
- ・自治体情報システム標準化が国の方針で進められており、新規受注が増えるとみられる。
- ・前年比で売上高は減少した。

### 【製品価格】

- ・電気料金高騰分の価格転嫁ができており、単価は上がった。
- ・カスタマイズ製品が多く、個別では受注内容で異なるが、全体として受注単価は上がった。

### 【採算性】

- ・外注費含め人件費の負担が大きくなり、採算性は悪化した。
- ・電気代の負担が大きく、価格転嫁が十分にできていないため採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

### 【設備投資】

- ・会議室の設置と新入社員用のPCを購入する。
- ・データセンターへの投資を計画的に行っている。
- ・設備投資は実施しなかった。

### 【今後の見通し】

- ・新規案件の相談が増えており、良い方向に向かうとみている。
- ・半導体不足が依然として解消しておらず、不透明感が強まっている。

## 4 サービス業（旅行業）

### 【業界の動向】

- ・学校関係の契約はコンスタントに続いてきたが、民間企業の契約も徐々に増えてきた。

### 【景況感】

- ・全国旅行支援が延長されたが、恩恵がある旅行会社は一部に留まり、不況である。

### 【受注高】

- ・貸切バスの需要増で前年比130%増加した。

### 【受注価格】

- ・ガソリン代上昇分を価格転嫁しており、受注価格は上がった。

### 【採算性】

- ・コスト上昇分に対する価格転嫁が不十分のため、採算性は悪くなった。

### 【設備投資】

- ・実施していない。

### 【今後の見通し】

- ・行動制限の緩和で団体旅行の問い合わせが増えており、良い方向に向かう。

## 5 建設業

### 【業界の動向】

- ・人手不足や引き抜きで廃業を余儀なくされる企業が出てきた。
- ・技術者の確保ができない中小工務店の廃業は増えていく。

**【景況感】**

- ・民間事業者の設備投資が増えており、好況である。
- ・仕事量はあるが前年のような勢いはなく、景況感は普通である。

**【受注高】**

- ・大型の公共工事が受注できており、受注高はほとんど変わらない。
- ・前年同期比で10～15%減少した。

**【受注価格】**

- ・個人向けの分譲住宅は最新の資材価格を反映させて販売している。
- ・公共工事は資材価格高騰分の価格転嫁ができています。

**【資材価格】**

- ・H型鋼の価格は前年から20～30%上昇している。
- ・木材、鋼材価格は高止まりしている。

**【採算性】**

- ・資材価格高騰の一方で価格転嫁が進んでおり、採算性はほとんど変わらない。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【今後の見通し】**

- ・コロナ禍で止まっていた開発関係が動き出しており、良い方向に向かうとみている。
- ・日銀の金利動向次第で投資マインドを冷やす可能性があり、どちらともいえない。